

新・東中とんぼ通信

発行 横浜市立若葉台東中学校 編集責任 鈴木 徹

イラスト こみね さおり



第 2 1 号

夏休み・いきものシリーズ その1

トンボの産卵



うかがいしる 覗い知ることができます。夏休みが終わると、秋の訪れとともに「赤とんぼ」が増えてきます。観察の機会にも恵まれると思いますので、皆さんも、注意して見つけてみてください。

夏も盛りを迎え、トンボ達も子孫を残すため、盛んに産卵活動を行っています。今回は「東中とんぼ池」で観察することができたオオシオカラトンボの産卵を紹介します。オオシオカラトンボは、♂の体色は青色、♀の方は黄色と違っていています。オオシオカラトンボとよく似た、おなじみのシオカラトンボの♀は、その体色が麦藁色に見えるので、別名ムギワラトンボともいいます。オオシオカラトンボは雌雄が協力して産卵を行います。この産卵様式を「連結産卵」といいます。産卵時には、写真の状態です器用に飛翔し産卵を行います。この辺りにもトンボ達に備わっている抜群の飛行性能を

ウスバキトンボの話

このトンボは、毎年暖かくなると、南方から日本へ大挙して渡ってきます。そして、国内で繁殖を繰り返しながら北方へ分布を拡げて行こうとします。お盆の頃が生息数も多いようです。しかしながら、冬の寒さには耐えられず、国内では越冬できません。ここまで書いてきて、ふっと思い出した事があります。もう亡くなってしまった父方の祖母が、「このトンボは精霊トンボといって、亡くなった人の生まれ変わりだから、殺生してはいけない」と話してくれたのです。昆虫採集大好き少年は、以後、無邪気に昆虫を捕らなくなり、同時に、子どもっばい遊びからも卒業していきました。小学校6年生の夏のことでした。



ウスバキトンボは9月になっても東中のプール辺りで観察できます。

セミも大合唱中です



8月に入って、東中学校の周りでも、たくさんのセミが鳴き始めました。鳴き声から判断すると、次のような種類が生息しているようです。まずは大きな声で「ミン・ミン

～ミン・ミー」と鳴いている**ミンミンゼミ**、次は「ジージー」と鳴く**アブラゼミ**、夕方になると目立つ「カナカナカナ」と少し寂しい声の**ヒグラシ**、何か夏の終わりを予感させるように「オーシートツク」と鳴く**ツクツクホウシ**、最後はあまり鳴き声の確認できなかった**ニイニイゼミ**、といった5種類のセミ

です。成虫の姿は只今撮影中ですので、今回は幼虫の抜け殻を2種類載せておくことにします。上の写真が**アブラゼミ**の抜け殻で、下の写真が**ニイニイゼミ**の抜け殻だと思います。鳴き声を頼りに、セミの観察会などいかがでしょうか。